

生態系対策にイエネコ追加 ネコは「愛護動物」か「狩猟鳥獣」か 見直しの動きも

2026/7/19 15:30

X ポスト

X 反应



記事を保存

木村 さやか ライフ | 暮らし



不妊去勢手術を受け、耳先をさくらの花びらの形にカットされた「さくらねこ」。地域で見守っているしるしでもある

環境省が約10年ぶりに改定する『生態系被害防止外来種リスト』で、イエネコを『防除推進外来種』対象に指定しようとした動きは、動物愛護管理法や鳥獣保護管理法との矛盾を改めて浮き彫りとしている。

動物愛護管理法はネコを「愛護動物」と位置づけ、みだりに殺したり傷つけたりした場合は5年以下の拘禁または500万円以下の罰金に処すると規定する。一方、鳥獣保護管理法では野生化した「ノネコ」を狩猟可能な「狩猟鳥獣」としている。

この矛盾に対し、環境問題に取り組む法律家でつくる一般社団法人「日本環境法律家連盟（JELF）」は鳥獣保護管理法の「ノネコ」「ノイヌ」規定は動物愛護管理法に抵触し、必要性も認められないとして環境省に削除を求める意見書を提出している。

野生化した「ノネコ」と外を行き来する飼いネコや地域ネコ、野良ネコを見分けるのは極めて難しい。販売されるネコにマイクロチップの装着が義務付けられたのは令和4年6月からで、販売ではなく譲渡などで入手された飼いネコには未装着のネコも多い。

Gemini
Enterprise app :
AI エージェントで
作業を自動化。

Google Cloud

無料トライアル

この矛盾に対し、環境問題に取り組む法律家で作る一般社団法人「日本環境法律家連盟（JELF）」は鳥獣保護管理法の「ノネコ」「ノイヌ」規定は動物愛護管理法に抵触し、必要性も認められないとして環境省に削除を求める意見書を提出している。

野生化した「ノネコ」と外を行き来する飼いネコや地域ネコ、野良ネコを見分けるのは極めて難しい。販売されるネコにマイクロチップの装着が義務付けられたのは令和4年6月からで、販売ではなく譲渡などで入手された飼いネコには未装着のネコも多い。



ネコの繁殖力は高いため、適切な繁殖管理が必須とされる

5年3月にネコを殺したとして動物愛護法違反の容疑で広島県警に逮捕された大学院生の男は「愛護動物にあたらぬノネコだと思った」などと供述するなど、法を「悪用」しようとした犯罪も起きている。

環境省や全国の自治体と協働して44万頭超の不妊去勢手術に取り組んできた公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦屋市）は狩猟鳥獣からの「ノネコ」「ノイヌ」削除を求める要望書を環境省に提出、同省も「ノネコとノラネコ、イエネコ（飼いネコ）の区別が現場で困難で、誤捕獲によるトラブルや動物愛護法違反のリスクがある」などとして昨秋から見直しに動き出した。

同基金の佐上邦久理事長は「鳥獣保護管理法ではノネコとの区別が困難としながら、生態系被害防止リストではイエネコと種名で一括防除しようとする国のやり方はダブルスタンダードで、おかしい」と指摘している。

殺処分かTNRか

過剰繁殖した野良ネコを適正規模に減らすには「殺処分」か、「TNR（野良ネコの繁殖を抑えるため捕獲、不妊去勢手術して元の場所に戻す）」か。この議論は日本だけでなく、世界で繰り返されてきた。近年の研究で明らかになっているのは、ネコの根絶や除去目的の駆除が「効果的」だったという科学的実証はほとんどない一方、高密度のTNRには顕著な効果があったとするモデル研究だ。

2023年に米学会誌に掲載された論文では、野生動物の楽園として知られる南アフリカのプリンス・エドワード諸島の一つ、マリオン島（面積290平方キロ）で19年間、推定2100～3100匹のネコが駆除された結果、いくつかの海鳥の生息数は急速に回復したが、島内のネズミ個体数が急増し、ほかは回復しなかったことを紹介。最新の調査では、殺処分は高強度で継続的に実施すれば効果はあるが、費用対効果はTNRの方が高いと指摘している。（木村さやか）